

2009年1月20日

シンポジウム「低炭素社会を展望する環境都市づくり」概要報告

2009年1月15日、大阪大学サステナビリティ・サイエンス研究機構（RISS）は大阪大学中之島センター10階 佐治敬三メモリアルホールにおいて、シンポジウム「低炭素社会を目指す環境まちづくり」～まちづくり編～『低炭素社会を展望する環境都市づくり』を開催し、成功裡に終了しました。

シンポジウムは RISS、サステナビリティ学連携研究機構（IR3S）、大阪大学サステナビリティ・デザイン・センター（SDC）が主催し、140余名の参加者を得て行われました。

馬場章夫 RISS 機構長の開会挨拶に続き、基調講演では早稲田大学名誉教授・元日本建築学会長の尾島俊雄先生から「低炭素社会と環境都市」について東日本と西日本のヒートアイランド現状の違い、ライフスタイルの転換、日本独自の文化を基礎とした都市のあり方等、様々な事例を交え価値観の転換が重要なこととお話し頂きました。環境モデル都市に選定された2つの大都市、横浜市と北九州市からは具体的な CO2 削減の取組みについて、市民と産業界が一体となったアプローチをお話し頂きました。パネルディスカッションでは大阪市、堺市、大手町・丸の内・有楽町地区再開発計画推進協議会から、CO2 削減活動、新交通システムの導入、ビジネス街でのワークスタイルや環境対策活動といったまちづくりの事例紹介を頂き、大阪大学大学院工学研究科の教員から研究者からの視点でコメントがありました。最後に低炭素社会を目指す環境まちづくりに向けた宣言文（案）が発表されました。

このシンポジウムで得られた知恵を活かした行動が、環境都市づくりに不可欠なものと確信します。



シンポジウム受付



基調講演をされた尾島俊雄先生



パネルディスカッション



会場内の様子